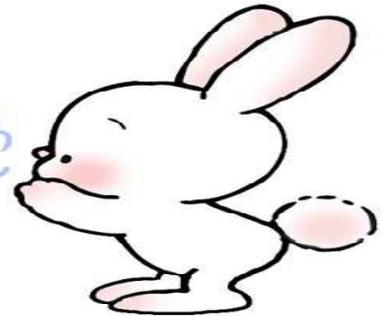


Welcome to the サイエンス・ワールド!!

2015, 1, 19(月)
第92号

那覇市立教育研究所
理科通信

あれから20年 阪神・淡路大震災の記憶①



1995(平成7)年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の大規模な地震が発生しました。この地震は、日本で初めての大都市での直下型地震でした。気象庁ではこの地震を「平成7年 兵庫県南部地震」と、政府は地震によって発生した災害を「阪神・淡路大震災」と名付けました。

地震の被害は、死者6434名、行方不明者3名、負傷者43792名、全壊家屋約105000戸、半壊家屋約144000戸と大きなものでした。

早朝のため、死者の多くは、建物に押しつぶされた圧死が多かったようです（関東大震災は火災による死者、東日本大震災では、津波による死者が多かった）。

また、大都市を直撃した地震のため、電気、水道、下水道、ガスなどのライフラインもすべて止まり、高速道路が倒れて、全面通行止めになりました。被災した人々は、約600か所の避難所で、帰る家もないまま、長期間生活を送ることになりました。社会や産業に与えた損害額は、約6兆9千億円と考えられています。

兵庫県では、『阪神・淡路大震災復興計画（ひょうごフェニックス計画）』を立て、被害を受けた街を元通りにすることだけでなく、すべての人々が安心して生き生きと暮らせる街を目指して計画を進め、復興を果たしてきました。今も、震災で学んだ多くのことを生かして取り組みを進めています。（文責：玉村かおり）



橋桁(はしげた)が横にずれた国道2号浜手バイパス



橋桁は16か所ずれており、最大は3.5mあった